

「第33回日本療術学会・録画DVDの感想文のまとめ」を頂戴して

日本療術学会の会員の皆様へ

この度は本学会の会頭講演としてDVDを皆様にお配りさせて頂きましたところ、多数の学会員の皆様から「新型コロナウイルス Covid-19 についての認識を新たにしました」といった、貴重なコメントや感想を頂戴しました。誠にありがとうございます。

ここに皆様方のお言葉へのお礼を申し上げますとともに、いくつかのご質問をいただきましたので、簡単ではございますが以下に、お答えいたします。

- 1、「腸内フローラ(腸内細菌叢)について、“脳の活性化をひきおこし、ひいては健康寿命の延伸に関係することが分かった。”というコメントをいただきました。

これについては、昨今、世界中で腸内細菌叢(腸内フローラ)研究が盛んになり、順天堂大学と森永乳業(株)との共同研究が約5年前に始まりました。森永乳業は多数の研究者が母乳などの研究を行う企業で、赤ちゃんの腸内にとっても多いビフィズス菌が、中年以降に減り高齢者では腸内から消えるほどに減少するので、このビフィズス菌を高齢の動物と人で調べた結果、菌服用者は3~4 か月で脳の機能を維持し、記憶や見当識が飲まない人に比べると有意に優れているとの研究結果を得たわけです。たった一種類の菌が特異な働きをするわけでないと考えますので、他の菌との関係性で、腸から脳へ働きかけるのだと、考えています。

ビフィズス菌服用者は赤ちゃんの便のようにやや酸っぱい臭いがします。これは菌が酢酸などの酸性物質を作るからです。良い便と認識しています。皆様の施術で、お腹への刺激がうまく作用すると腹具合がよくなり、便通が改善し、便の形や色、臭いがよくなり、脳まで活性化する可能性があります。ビフィズス菌は多くのヨーグルトに含まれます。野菜と共にヨーグルトを食べるとよいと勧めてください。

- 2、「身体のリズムを整えることが大切。生体リズムに必要なものは、食事、睡眠、運動など」とのコメントを頂戴しました。

地球上の生物の殆どが太陽と月の周期に合わせて規則性をもって生きています。私たちの心身も、細胞や組織や血流・リンパ流や呼吸などすべて、リズムカルに協調しつつ動いているのです。体調が悪くなるとこのリズムが壊れますので、それを自分だけではなく、施術などを通して外部から刺激を与えて壊れたリズムをリセットすると、再び心身はリズムカルに動き始めると考えられます。リズムの与え方が難しく、ここに皆さんの技量や話術を含めた人間性などが関与するのだと考えます。工夫して、何かヒントが得られれば教えてください。

- 3、「伝統文化(華道、茶道、書道、能、歌舞伎、剣道、弓道、武道、その他)に係る人たちは個人の技芸に誇りを持って生きている。」とのコメントを頂きました。

手に技術を有するのは大きな誇りです。技術を通して人に喜びを与えるのが技芸です。施術を技芸と称する伝統文化に引き上げるのが皆さん方の目標になって頂きたいと考えます。皆様方の誠実な、真摯な取り組みが、施術を技芸に高めて頂くと信じます。

4、「(DVD を拝見して)療術の役割をもう一度見直して、施術にあたりたい。」

貴重なコメントです。施術を技芸に高めるには日々の研鑽が大切です。「人の苦しみ・辛さを見て、共感し、そして、考え、動き、苦しみを取り去り、刺激に対する応答(反応)を見て、受療者と共に喜びを分かち合う。」この繰り返しができる現場をお持ちの皆様方こそ、新たな技芸者になる方と考えます。

5、「利他の心で施術し、明るく患者さんと共に生きる。」

施術者は、医療人として患者・クライアントの最大利益にかなうように努力することが基本です。利他の心で、患者さんの喜び・幸せを、自らの喜びとするのです。施術は術者とクライアント・患者さんの心が一体となっているように思います。

6、「ビヒズス菌を摂取するとき、ヨーグルト等の乳製品がダメな場合はどうすればよいか。」

最近では、ビフィズス菌は多くの会社からサプリメント(粉かカプセル)として販売されています。ヨーグルトではありませんので、副作用はないといわれます。私も過去5年間種々なビフィズス菌を服用実験してきましたが、副作用は皆無でした。便秘や疲労回復や、私どもが開発に関与した「記憶対策ビフィズス菌 MC1274(森永乳業・クリニコ)」はサプリで販売されています。試してみてください。

7、「オミクロン株の感染が急激に拡大している現在、今後の予測と対策について。」

世界中の学者や研究者が取り組んでいる課題です。オミクロン株にも BA1 という型から BA2 へと変異が起り、一層感染性が高まったといわれます。また第4~5波で猛威を振るったラムダ株も変異を続けているようで、昨今重症化した感染者はオミクロン株でなくラムダ株の変異型だとの報告もあります。

今後は、変異がさらにどの程度おこるのか、と、変異株に対するワクチン開発が可能か、が流行の有無を決めるでしょう。

対策は、これまで通り、感染者の口・鼻から出るウイルスを吸わないこと、触らないことです。二重のマスクとか、嗽と歯磨き、鼻をかむ、眼鏡、大声での会話禁止、換気、手洗い、とともに、免疫を高め、体調管理を万全になさっていただくことです。

今後も、新興・再興感染症が人類を襲うと思われませんが、Covid-19 は必ずや収まるというのが、医療人の共通の考えです。それまで皆様、頑張ってください。

2022年2月7日

日本療術学会 会頭
順天堂大学名誉教授・特任教授
学校法人順天堂 理事
佐藤信紘